

乳児非A非B型肝炎におけるHCV感染

(分担研究：小児の肝疾患に関する研究)

白木和夫、長田郁夫、岡田隆好、谷本 要

要約：乳児非A非B型肝炎47例について臨床経過とともにHCV抗体(C100抗体)による検討を行なった。47例中HCV抗体は3例のみに検出された。またHCV抗体陰性例8例についてPCRによりHCV-RNAの検出を行なったところ5例(62.5%)に検出された。乳児非A非B型肝炎において、C100抗体が陰性であってもHCVが関与している症例が少なくないものと考えられた。

見出し語：乳児非A非B型肝炎、C型肝炎、HCV抗体、PCR、HCV-RNA

【目的】

乳児期の非A非B型肝炎におけるHCV感染についてHCV抗体(C100抗体)およびPCRによるHCV-RNAの検出で検討した。

【対象と方法】

対象は乳児非A非B型肝炎47例(男児25例、女児22例で双胎2組、同胞3組を含む42家系)である。対象の初診月齢は0~10か月、経過観察期間は6~65か月であった。なお乳児非A非B型肝炎は以下の①、②をみたすものとした。

①原則として肝機能異常が3か月以上持続し、かついったんはGPTが100U/L以上となったもの。②

HBs抗原、HBs抗体、IgM Hbc抗体、IgM HA抗体、サイトメガロウイルス抗体、単純ヘルペスウイルス抗体、風疹ウイルス抗体、EBウイルス抗体、トキソテストのすべてが陰性、ないしは有意の上昇を示さず、A型肝炎、B型肝炎、肝炎ウイルス以外のウイルスによる肝障害、各種代謝異常による肝障害、薬剤による肝障害などが否定されたもの。

対象例について経時的に肝機能検査を行ない、経過中HCV抗体(Ortho C100抗体)の測定を行なった。また対象例の同胞23例(兄弟12例、弟妹11例)について肝機能検査を行なった。

対象例のうち8例についてPCRによりHCV-RNAの検出を行なった。PCRのプライマーとしては

鳥取大学医学部小児科学教室

Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Tottori University

5'non coding regionを用いた。

【結果】

47例のうち生後4か月以内に発症した症例が34例(72.3%)であり、肝機能障害が6か月以上持続した症例は30例(63.8%)であった。また同胞の検査では兄弟12例中非A非B型肝炎2例、非A非B型肝炎の診断基準を満たさない肝機能異常4例が認められた。弟妹については11例において3例が非A非B型肝炎、2例で一過性の肝機能異常が認められた。(表1)

42家系の母親のうち肝機能検査が可能であった28例において、肝機能異常は3例のみに認められた。

乳児非A非B型肝炎症例47例中 HCV抗体は3例に検出された。また母親28例のうち陽性例は1例のみであった。

児の陽性例3例については以下の通りである。

(症例1) 劇症肝炎症例であるが、発症時 HCV抗体は陰性で、頻回の血漿交換を行なった後に陽性となった症例であり、輸血によるHCV感染の可能性が高いと思われた。母親の肝機能は正常で、HCV抗体は陰性であった。(症例2) 生後1か月時に肝機能障害が認められ、GPT 極値は269U/Lであった。その後GPT 値は徐々に低下し生後5か月で正常化した。HCV抗体は生後1か月時は陰性であったが、2か月で陽性となり6か月までOD値1.0～2.0の間を変動した。母親の肝機能は正常で HCV抗体は陰性であった。

(症例3) Down症候群症例であるが、生後2か月肝機能障害が認められ、GPT 値は生後7か月まで変動を続けた(20～174U/L)。HCV抗体は生後2か月にはすでに陽性で、その後OD値は徐々に上昇した(生後7か月にはOD値>2.5)。この児は生後2か月時に輸血されていたが、HCV抗体は初回輸血前に検出されていた。母親は肝機能障害なく、HCV抗体は陰性であった。

HCV抗体陰性例8例においてPCRによりHCV-RNAの検出を行なったところ5例(62.5%)に検出された。(表2)

【考案】

乳児非A非B型肝炎47例のうち HCV抗体が検出された症例は3例のみであった。このうち1例は輸血による感染の可能性が考えられたが、他の2例については生後早期より肝機能障害が出現し、

HCV抗体も検出されている。母親に肝機能障害は認められておらず、HCV抗体も陰性であった。感染経路は明らかではないが、散発性感染、母子感染などが考えられた。

乳児非A非B型肝炎においてHCV抗体が検出された症例はほとんどなくHCVの関与は殆どないものと考えられていたが、HCV抗体陰性例においてもHCV-RNAは半数以上に検出され、乳児非A非B型肝炎においてHCVの関与は決して少なくはないものと考えられた。今後症例を積み重ね検討を行なう予定である。

表1 同胞の肝機能障害

	NANB	LDF ¹⁾	WNL ²⁾
兄姉 (12例)	2	4	6
弟妹 (11例)	3	2	6

1)一過性の肝機能障害

2)肝機能障害なし

表2 HCV-RNA and anti-C100 in infants with non-A,non-B hepatitis

Case	Onset	Follow-up period	Duration of sGPT elevation	Maximum sGPT (U/L)	Anti-C100	HCV-RNA
1	9m	9m ~ 1y 5m	9m ~ 1y5m	1000	(-)	(+)
2	1m	1m ~ 1y 6m	1m ~ 8m	345	(-)	(+)
3	3m	1m ~ 1y 1m	3m ~ 9m	161	(-)	(+)
4	1m	1m ~ 11m	1m ~ 8m	174	(-)	(+)
5	2m	0m ~ 2y 4m	2m ~ 10m	637	(-)	(+)
6	3m	3m ~ 7m	3m ~ 6m	450	(-)	(-)
7	1m	1m ~ 1y 8m	1m ~ 1y7m	2010	(-)	(-)
8	4m	4m ~ 1y11m	4m ~ 12m	747	(-)	(-)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:乳児非 A 非 B 型肝炎 47 例について臨床経過とともに HCV 抗体(C100 抗体)による検討を行なった。47 例中 HCV 抗体は 3 例のみに検出された。また HCV 抗体陰性例 8 例について PCR により HCV-RNA の検出を行なったところ 5 例(62.5%)に検出された。乳児非 A 非 B 型肝炎において、C100 抗体が陰性であっても HCV が関与している症例が少ないものと考えられた。